

平成 21 年度第 1 回平川市地域公共交通協議会会議録

会長	副会長	事務局長	事務局員

開催日時	平成 21 年 5 月 20 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時
開催場所	平川市役所本庁舎 4 階「第 4 会議室」
案 件	1) 平成 20 年度事業報告について 2) 平成 20 年度収支決算について 3) 会計監査報告 4) 地域公共交通活性化・再生総合事業計画認定及び補助金交付決定について 5) 平成 21 年度実施計画案について 6) 平成 21 年度収支予算案について 7) 新屋地域バス実証運行説明会結果について 8) 「地域社会が保障すべき生活交通のサービス水準に関する研究」報告
出席者	(委員出席者) ○菊池武弘会長 ○葛西幸夫(葛西金光監事代理) ○奈良進委員 ○工藤清委員 ○下山敏則委員 ○佐々木孝昌委員 ○八木橋長委員 ○船水永一郎委員 ○伊藤一哉委員 ○喜多秀行委員 ○山下祐介委員 ○佐藤成子委員 ○小野敬子委員 ○秋田谷宗孝(見崎委員代理) (出席者 14 名) (事務局) 事務局長 齋藤久世志 事務局員 工藤慎一 (コンサルタント) 岸野啓一(岸野都市交通計画コンサルタント(株)代表取締役) (委員欠席者) 大黒正勝副会長 大川喜代治監事 小笠原勝則委員 関重雄委員 豊嶋修委員 大橋大樹オブザーバー(欠席者 6 名) (傍聴者) 1 名
事務局長	ただいまより、平成 21 年度第 1 回平川市地域公共交通協議会を開催いたします。 本日は、平川市行政委員連絡協議会会長の大黒副会長、平川市社会福祉協議会会長の大川監事、社団法人青森県バス協会専務理事の豊嶋委員、青森県新幹線・交通政策課主査の大橋オブザーバーが欠席、青森県交通運輸産業労働組合幹事の見崎委員の代理として秋田谷弘南バス労働組合書記長が代理出席、株式会社平賀ハイヤー代表取締役の葛西金光監事に替わりまして葛西幸夫さんが代理出席、県道道路施設管理者である青森県中南地域県民局地域整備部道路施設課長は人事異動により本日の協議会から笠井委員に替わりまして佐々木孝昌委員が出席、黒石警察署交通課長

	<p>は人事異動により近松委員から関重雄委員に交替となっておりますが本日は欠席となっております。出席者は14名となっております。それでは、協議会開催に先立ちまして菊池会長よりあいさつをお願いいたします。</p> <p>協議会委員の皆様におかれましては、公私ともにご多忙のところ出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、平川市地域公共交通総合連携計画につきましては、昨年度一年をかけて委員皆様から貴重な意見を頂戴し、それを計画に反映させ、ようやく今年の3月に策定の運びとなりました。委員の皆様には、心から感謝申し上げます。</p> <p>本計画では「みんなが元気な平川市」を目標として掲げ、この「みんな」というのは交通弱者でありますけども、5つの視点と14の目標により、地域公共交通の活性化と再生に取り組むこととしており、今年度から3年間、その実現に向けていよいよ動き出すこととなります。</p> <p>特に計画の中心となるのが、通学バスなどのバスの実証運行でございます。実証運行については今年度が初年度となりますことから、その実現と成功に向け、皆様に個別にご相談させていただく機会が多くなることと思います。その節はご協力をお願い申し上げます。</p> <p>昨年度当初から申し上げているように、交通というのは目的を果たすために必要な手段ではなく、また、目的地へのアクセスの機会の確保ばかりではなく、交通安全、環境改善、そして、地域活性化ということにまで影響を及ぼしていきます。公共交通の維持と活性化は、将来は自分自身の問題であると認識し、行政、関係機関、そして市民が一丸となって取り組む問題であります。その問題解決と目標実現のために、引き続き、皆様には昨年度と同様、ご意見を頂戴していただきたいと思っております。</p> <p>本日は、昨年度の決算、今年度の実施計画と予算審議、そして実証運行の方法等について協議していきたいと思っております。よろしくご審議の程、お願い申し上げて、あいさつとさせていただきます。</p>
事務局長	<p>それでは、規約により会長が議長を務めることになっておりますので、この後の議事進行については菊池会長にお願いします。</p>
菊池会長	<p>それでは議長を務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。さっそくですが、次第に従いまして本日の議事を進めてまいります。</p>
事務局	<p>それでは、案件1平成20年度事業報告、案件2平成20年度収支決算を事務局から説明を、案件3会計監査報告は葛西監事から報告をいただきたいと思っております。</p> <p>(資料に基づき説明)</p>
葛西監事代理	<p>(会計検査報告を朗読により報告)</p>
菊池会長	<p>ただ今、説明いただきましたが、この件について質疑等ありましたらお願いします。</p> <p>(一同なし)</p>
菊池会長	<p>なければ、平成20年度決算については認定されたものとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>

菊池会長	<p>それでは、平成20年度決算は認定されたものとします。</p> <p>次に案件4地域公共交通活性化・再生総合事業計画認定及び補助金交付申請について、案件5平成21年度事業計画案について、案件6平成21年度収支予算案について、を通して事務局より説明願います。</p>
事務局	(資料に基づき説明)
菊池会長	ただ今、説明いただきましたが、この件について質疑等ありましたらお願いします。
喜多委員	新屋地区の方の意識は、去年と変わってきたと思う。地域の「健康」のため、バスは大事だと認識させる、つまり「病気」になる前に「予防」することが大事である。実証運行の効果検証に当たっては、そのような「予防」の意識が始める前と後でどのように変わったか調べていただきたい。
事務局長	利用状況調査については今年度も実施します。意識の変化も同時に調べて行きます。
山下委員	平成22年度はまた新しい実証運行が始まるが、今年かなりその地域に仕込まなければならない。マイバスの会は活性化していないが、人集めするくらいの費用があれば、次年度に向けてのアイデアを出していきたい。少し調査費があればいい。
事務局長	5百万円の委託料の中で対応できるが、中身を見た上で判断したい。ただし、国の補助対象とはならないと思います。
伊藤委員	本省からは、評価検証でなければいいと聞いている。補助対象可能かもしれないが、必ずしも対象とはならないと思われる。
事務局長	中身について幹事会で協議し、国へも可能かどうか聞いてみます。次回の協議会で協議したい。
佐藤委員	3年前に唐竹で実験したが赤字であった。マイバスの会では温泉めぐりをする予算しかなく、マイバスの会に少しでもお金があればいい。よろしく願いたい。
山下委員	唐竹で熱心であったのは温泉めぐりのおばあちゃん、かなり真剣であった。温泉めぐりだとしても話を聞く機会は必要であり、聞く機会を設定していただければ下の世代がお年寄りになったときのための「元気な平川市」とすればいいのではないかと思う。
菊池会長	他に質疑ありますか。なければ、平成21年度事業計画案と予算案については承認されたものとしてよろしいでしょうか。
	(異議なし)
菊池会長	それでは、平成21年度事業計画及び予算は承認されたものとします。
	次に案件7新屋地域バス実証運行説明会について、を事務局より説明願います。
事務局	(資料に基づき説明)
山下委員	何人乗れば成功と言えるのか。
事務局	そこまで話はしなかったが、地区の方は失敗すればなくなるという認識は持っている。乗って維持することも必要だが、世帯からいくら出せばいいのかまで住民の間で話し合われたので、敢えて何人という目標は出さなかった。市としては料金収入が4分の1以上くらいを想定しているが、地元には伝えておりません。
喜多委員	バスを走らせるという気運が高まったので一部負担の話も出たのではないか。一

	層の気運の醸成をお願いしたい。
小野委員	私も説明会に参加したが、地域の人の意識が高くてびっくりした。成功させないといけないという意識があったと思う。
喜多委員	前の協議会で、バスの運行については、小笠原委員が議会での理解を得ることが必要であると言った一方で、大川委員は前議長でありながら放っておけない、と言っていた。つまりは、我が身のことを考えるかどうかで違う意識となっている。新屋地区でも我が身のことを考えた結果ではないかと思う。
小野委員	新屋町会では町会長がリーダーシップをとってこのような結果となったと思う。
喜多委員	個人の力に依存してもいいが、それで決まてはいけない。市全体で意識を共有していかなければならない。市としてはぜひバックアップをお願いしたい。
奈良委員	市としてはバックアップをしていきたい。平成15年度の循環バスの説明会では、1日15便バスがあれば乗るといようないい話をしていたが、結局、行動力が伴わないのか失敗に終わった。熱い気持ちを町会の皆さんに持ってもらいたいと思っている。
山下委員	以前開催したシンポジウムには新屋町会が来ていたので、そのような結果になったと思われる。シンポジウムを開催するのもいいと思う。実験途中の新屋を他の町会に見せて、市全体が元気になればいい。弘南バス、弘南鉄道は企業として地域とどのように関わっていくのか。
工藤委員	鯨ヶ沢町の深谷や旧相馬村相内地区などで回数券購入のことで地域と関わってきた。でも深谷地区の現状は鯨ヶ沢町の財政事情により減便もあり得るが、町会長がまとめあげているから今も残っている。相内地区のバスは国の補助で残るだろう。今後も地域と協議しながら関わっていくであろう。
下山委員	昨年度あるNPOが高校生と一緒に沿線マップを作り、各商店へ配っている。その効果は把握できていない。地域の懇談会は昔あったが、要望ばかりされて、みんなで乗ろうという意識はなかった。要望に答えていきたいが費用がかかる。具体策はないが会社としても考えていく。津軽鉄道にはサポーターズクラブがあり活動が活発だが、弘南鉄道では友の会があって、イベント電車や無人駅の清掃などの事業を予算化して行っている。
山下委員	住民が主体的に取り組んでいくのが理想的で、新屋町会はこれからが大切である。また、一方でユーザーと事業者が話し合っていくのが、事業者としては大変であると思うが、もっと大切である。色んなニーズがあると思われるので、研究者、市役所関係なく取り組んでもらいたい。
菊池会長	他にありませんか。なければ次に、案件8「地域社会が保障すべき生活交通のサービス水準に関する研究」について神戸大学喜多委員、岸野交通計画コンサルタントより報告願います。
菊池会長	(喜多委員、岸野都市交通計画コンサルタントより資料4に基づき説明) 報告ありがとうございました。次の協議会は先ほどのスケジュールにもあったとおり7月、幹事会については6月から7月にかけて開催する予定しております。本日はありがとうございました。

以上、会議顛末を報告するものである。

(報告者氏名) 事務局員 工藤 慎一